

酒田市文化芸術推進計画（仮称）

第4回検討委員会

日時：平成29年11月20日（月）午後7時

会場：酒田市役所4階庁議室

次 第

1. 開 会

2. 挨 拶

酒田市教育委員会教育長 村 上 幸 太 郎

3. アドバイザー挨拶

帝塚山大学名誉教授 中 川 幾 郎 先生

4. 協 議

(1) 文化芸術推進基本条例案について

①骨子案について

(2) 文化芸術推進計画（案）について

①推進計画（案）の基本的施策の方向性について

②基本的施策に基づく核となるテーマ

(2) その他

5. その他

(1) 今後のスケジュールについて

●12月20日～1月10日 パブリックコメント

●1月12日（金） 中川先生による研修会

15:00 庁内関係部課長対象

19:00 文化団体対象

●第5回検討委員会 平成30年1月13日（土）午後4時 最終案の確認等

●交流会 平成30年1月13日（土） 午後6時 ※詳細未定

※第5回検討委員会終了後、アドバイザーの先生と検討委員の皆さんとの交流会を開催予定です。詳細は別途ご案内させていただきます。

6. 閉会

第1章 推進計画の策定にあたって

第1節 推進計画策定の趣旨

酒田市文化芸術推進計画は、酒田市総合計画（以下、「総合計画」という。）、酒田市教育振興基本計画後期計画を推進していくための個別計画の一つとして位置づけ、今後の酒田市における文化芸術推進の方向性を示し、戦略的かつ継続性のある取り組みを行うために策定するものです。

策定にあたっては、酒田の自然や歴史などを背景として、先人たちの営みにより培われてきた文化芸術及び文化芸術に関する施策の現状や課題を把握するため、社会的な動き、地域の特性、文化資源などの「地域資源」に着目しながら整理を進めるとともに、市民へのアンケート調査や文化芸術団体等との意見交換会なども行いながら、地域性にあった計画の策定を目指しました。

第2節 推進計画の期間

本計画は、平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5カ年間で取り組むべき文化芸術に関する施策の方向性を示す計画です。

第3節 文化芸術の領域

1 文化芸術の対象分野

芸術、芸能、生活文化等の文化芸術基本法（平成29年法律第73号）が対象とするもののほか、市民が主体的に行う創造的な活動が含まれます。

2 文化芸術活動の範囲

文化芸術を享受し、創造する活動のほか、これらの活動を「支援」、「継承」する活動も含まれます。

第1節 文化芸術を取りまく社会的背景

文化芸術を取り巻く社会的背景として、国等において、次のような動向があります。

1 文化芸術基本法

平成13年12月に文化芸術振興基本法を施行し、同法に基づき4次にわたって策定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」のもと、文化芸術立国の実現に向けた文化芸術の振興に関する取組みが進められてきました。

一方で、少子高齢化・グローバル化の進展など社会の状況が著しく変化する中で、観光やまちづくり、国際交流等幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術に関する施策の展開が、より一層求められるようになってきました。

このようなことから、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することを目的に平成29年6月に法律の改正が行われました。この法律改正においては、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術団体の果たす役割が明記され、連携・協働についても規定されるとともに、地方における「文化芸術推進基本計画」の策定が規定されました。

2 文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）

国は、これまで「第1次基本方針」（平成14年12月閣議決定）、「第2次基本方針」（平成19年2月閣議決定）、「第3次基本方針」（平成23年2月閣議決定）を策定し、各基本方針に基づき、文化芸術の振興に取り組んできました。

一方で、第3次基本方針策定後、東日本大震災の発生や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定（平成25年9月）、地方創生に向けた取組みの一層の推進等、社会情勢の変化があったことから、平成32年を見据えた文化芸術振興のための基本的な施策の在り方を定めるために、平成27年5月に「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第4次基本方針）が閣議決定され、文化芸術資源で未来をつくり「文化芸術立国」を創出していくことが国家戦略とされました。

3 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

平成24年6月に、文化芸術振興基本法の基本理念にのっとり「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（以下、「劇場法」という。）が制定されました。

劇場法の前文では、劇場、音楽堂等に期待される機能として、「地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能」、「国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する

「世界への窓」にもなること」が挙げられており、劇場、音楽堂等は、国民の生活においていわば公共財であるとも位置づけられています。

一方現状の課題として、実演芸術活動や、劇場、音楽堂の事業を行うための人材養成を強化していく必要があること、実演芸術団体の活動拠点が大都市に集中しており、地方においては、実演芸術に触れる機会が少ない状況が固定化している現状も改善することなどが挙げられています。

こうした課題を克服するため、劇場、音楽堂等に関わるすべての者（設置者、運営者、実演団体、芸術家、国、地方公共団体、教育機関等）は、社会全体が文化芸術の担い手であることを広く認識されるよう、連携協力して取り組む必要があります。

さらに劇場法では国または地方公共団体が取り組む基本施策として、国際的に高い水準の実演芸術の振興、国際的な交流の促進、地域における実演芸術の振興、人材の養成及び確保等、国民の関心と理解の増進、学校教育との連携が努力義務として挙げられています。

加えて、劇場法では劇場、音楽堂等の事業の活性化に関する指針を策定することが国に要請されていますが、このことは劇場法の趣旨や前文からも、地方公共団体も策定することが要請されると解されます。

4 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

平成32年に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されますが、これを文化の祭典としても成功させることにより、わが国の文化や魅力を世界に示すとともに、文化芸術を通じて世界に大きく貢献するまたとない機会であり、文化芸術の振興にとって大きなチャンスと捉えられています。2020年の東京大会の開催効果を東京のみならず広く全国に波及させるため、文化プログラム等の機会を活用して、全国の自治体や芸術家等との連携の下、地域の文化芸術を体験してもらうための取組みを全国各地で実施することとしています。

第2節 酒田市における文化芸術の現状と課題

1 現状

(1) 酒田市の豊かな文化資源

まだ大地の多くに原生林が残り、蝦夷と呼ばれる先住民がいた頃、庄内は、現在の山形、秋田の両県をまたぐ広大な「出羽国」でした。その頃、国府がおかれていたとされる酒田は、政治・経済・文化の要として、諸国からの移民たちとの交流により、新しい文化や技術を取り入れ、東北の先進地として発展しました。西廻り航路が整った江戸期には海上交易と最上川舟運の要として、独自の華やかで自由な湊町文化を形成し、繁栄をとげました。今も市内の随所でその痕跡を見ることができ、平成29年4月には、日和山公園、旧鑑屋、本間家旧本邸などを構成文化財とした「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が文化庁の日本遺産に認定されました。

飯森山地区の文化ゾーンには土門拳記念館、酒田市美術館、出羽遊心館、そして市街地には本間美術館など、気軽に質の高い芸術作品を鑑賞し、活動できる場が多くあります。市民会館「希望ホール」では、優れた音響設備と多目的スペースを備え、世代を問わず誰もが芸術に親しめる

コンサートや演劇など、国内外トップクラスの多彩な公演を開催しています。この恵まれた文化的環境のもと、多くの文化芸術団体、国内外で活躍する酒田市ゆかりのアーティストが育っています。

また、酒田市には「民俗芸能の宝庫」と言われるほど各地に独自の民俗芸能が伝承されており、黒森歌舞伎、松山能、延年舞、獅子舞をはじめとする多くの芸能や伝統行事が、地域の風土と密接に結びつきながら大切に伝えられてきました。

(2) 酒田市の文化芸術活動

- ・市内の文化施設を活用し、酒田市芸術文化協会による酒田市民芸術祭が毎年開催されています。県内で最も歴史のある市民芸術祭では各団体の発表・展示に加えて、毎年、開幕式典並びに開幕公演を行っており県内でも高い評価を得ています。
- ・酒田市民会館「希望ホール」では、希望ホール自主事業企画運営委員会が中心となって、国内外の著名アーティストや楽団を招へいしています。
- ・市内の美術館では作品の展示に加えて、作品づくりワークショップなどの育成に重点を置いた活動も企画、実施しています。
- ・管弦楽、吹奏楽、合唱など音楽活動が、市民団体によって活発に行われています。
- ・「酒田市生涯学習推進計画」に基づき、「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」を合言葉に生涯学習情報をカモンくんニュースとして毎月発行して情報を提供するとともに、人材の情報収集と提供、市民自らが講座の企画運営を行う事業等を行っています。
- ・市内の各コミュニティ振興会においては、まちづくり総合交付金を受けて各種の文化芸術活動や発表会が行われています。

(3) 文化的環境

- ・市を代表する文化施設として、酒田市民会館「希望ホール」、土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館、酒田市総合文化センター、酒田市資料館があげられます。とくに地方都市において大規模美術館が3館あることは、市民の誇りになっています。
- ・酒田市民会館「希望ホール」は、旧市民会館を改築して平成16年7月に開館。堅実な設計の劇場として、その音響特性や使い勝手の良さは観客からもアーティストからも高い評価を得ている。希望ホール自主事業企画運営委員会が中心となって、国内外の著名アーティストや楽団を招へいしています。また、市民、学校による舞台芸術の練習・発表会場としても大いに利用されています。
- ・土門拳記念館は世界初の個人の写真専門美術館として昭和58年10月に開館。土門拳の作品約7万点を収蔵し、土門のライフワークであった「古寺巡礼」をはじめ、「室生寺」「ヒロシマ」「筑豊のこどもたち」「文楽」「風貌」などの代表作品を、その保存をはかりながら順次公開しています。
- ・酒田市美術館は平成9年10月に開館。常設の柱として洋画家・森田茂氏、本市出身の洋画家・斎藤長三氏、彫刻家・高橋剛氏の作品を所蔵、展示するほか、子どもや若い女性向けから、高齢者まで楽しめる展覧会を実施しています。

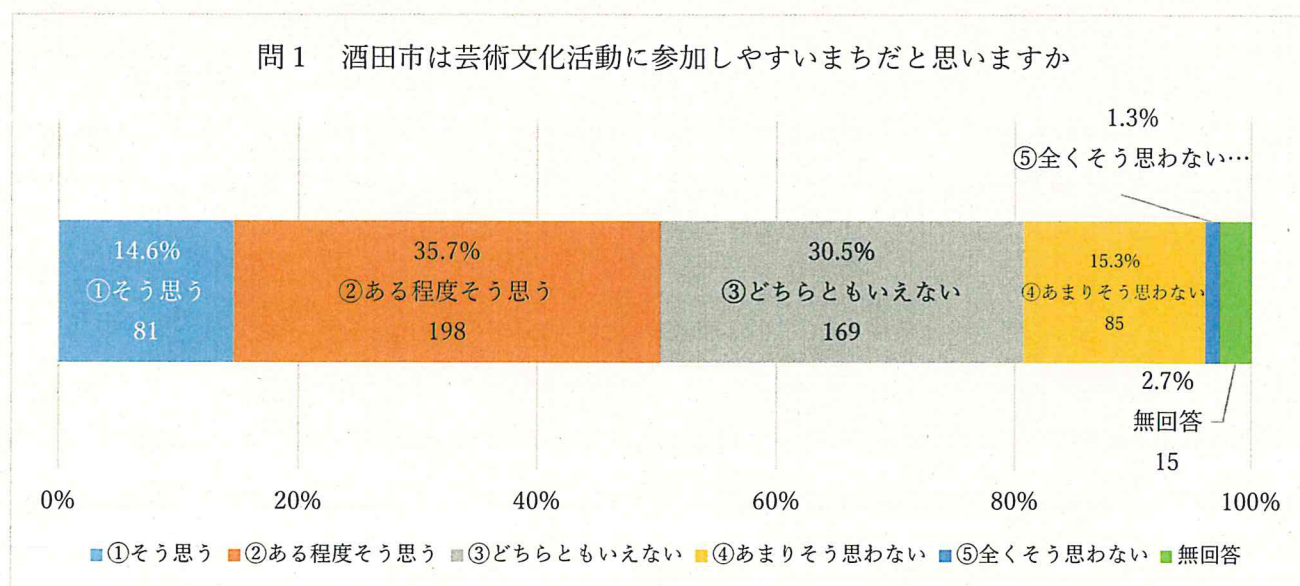
- ・本間美術館は日本一の地主として知られた本間家が創始者となり、昭和22年に開館した美術館です。敗戦後の社会の混乱と人心の荒廃を見て、日本美術の鑑賞を通じて自信と誇りを取り戻して欲しいという念願から、別荘と庭園を美術館として公開したことから始まりました。本間家ゆかりの品々の展示や郷土作家の作品展示などを実施しています。
- ・酒田市総合文化センターは中央公民館、中央図書館、各種教育機関などが配置された複合施設として昭和57年に会館。一階モールは展示スペースとして、ホールは生涯学習の成果発表の場として、3階から4階はサークルの活動拠点として、年間約40万人が利用しています。
- ・酒田市資料館は、文化財や地域資料の収集、保管と展示活動を行い、市民文化の一層の向上に資するとともに、文化財保護思想の啓発普及を図るため、昭和53年4月、酒田市資料館が設置されました。資料を活用した企画展示を行うとともに、ギャラリートークを行うなど、ソフト事業の充実を図っています。
- ・平成28年度より、酒田市の文化振興において重要な役割を持つ酒田市美術館、土門拳記念館、本間美術館、酒田市資料館の4館が相互に情報交換を行い、連携を図りながら市民への教育普及活動の展開やPRの強化を目的に、四館連絡協議会を設置し活動の充実を図っています。

2 課題

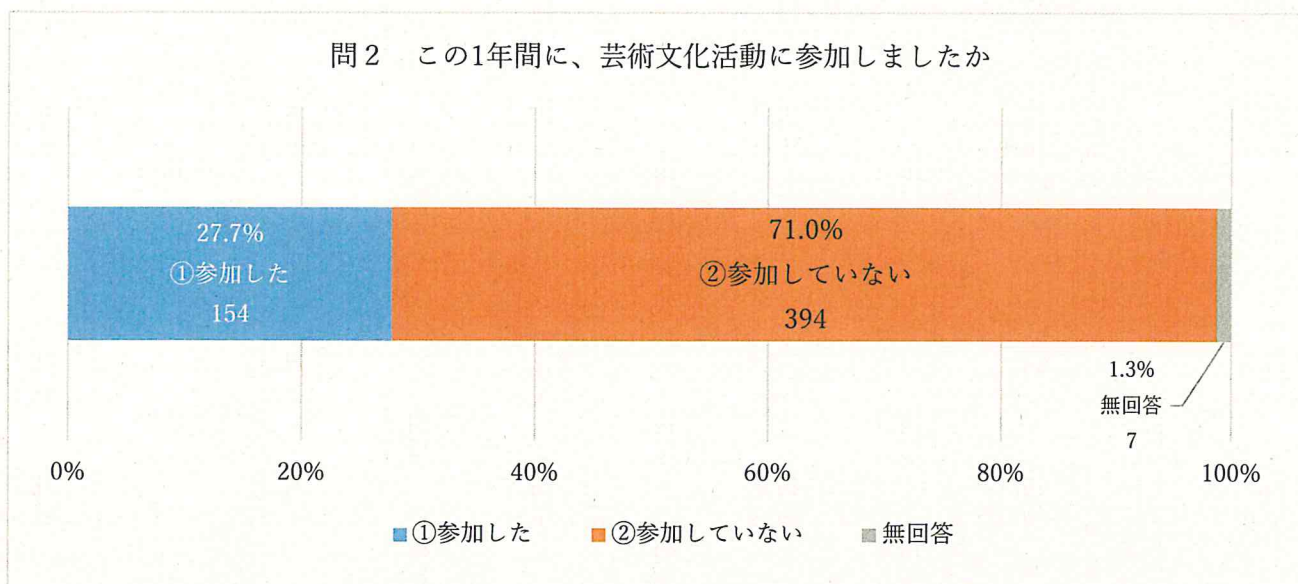
平成29年7月に「酒田市芸術文化振興計画（仮称）策定に伴うアンケート」を実施した結果、酒田市における文化芸術の分野における課題は以下のとおりとなります。

(1) 文化芸術活動のしやすさの向上

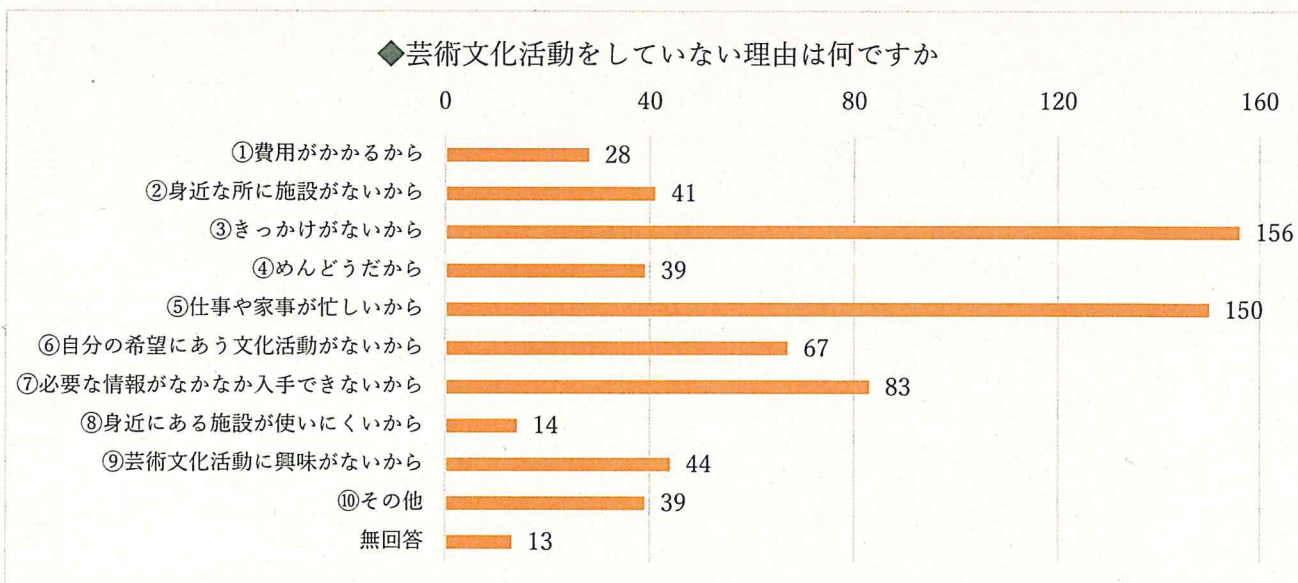
「酒田市は芸術文化活動（コンサート、講演会、ワークショップ、民俗芸能等）に参加（鑑賞も含む）しやすいまちだと思いますか。」という問いに対して「そう思う」とある程度そう思う」の合計は、50.3%で約半数という結果がでました。



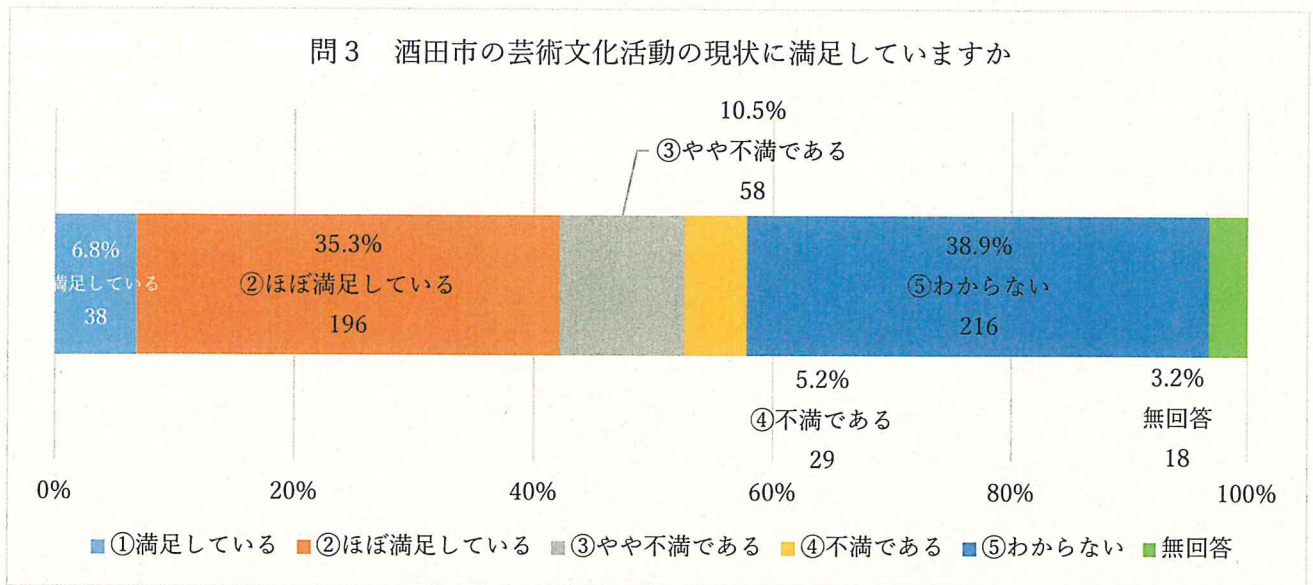
「この1年間に、芸術文化活動に参加しましたか」という問いに対して「参加した」という回答は27.6%という結果であり、一般的な鑑賞に比べ、自ら活動に参加する人はそれほど多くはないという実態がみえてきます。自ら活動に参加する機会の提供が今後の課題とあげられます。



「芸術文化活動に参加していない理由」については、「きっかけがないから」という回答が156人と多く、文化芸術活動に関心はあるけれども、きっかけがないために活動が出来ていない市民が多いという結果がでました。文化活動の情報提供や参加しやすい環境の整備が課題としてあげられます。

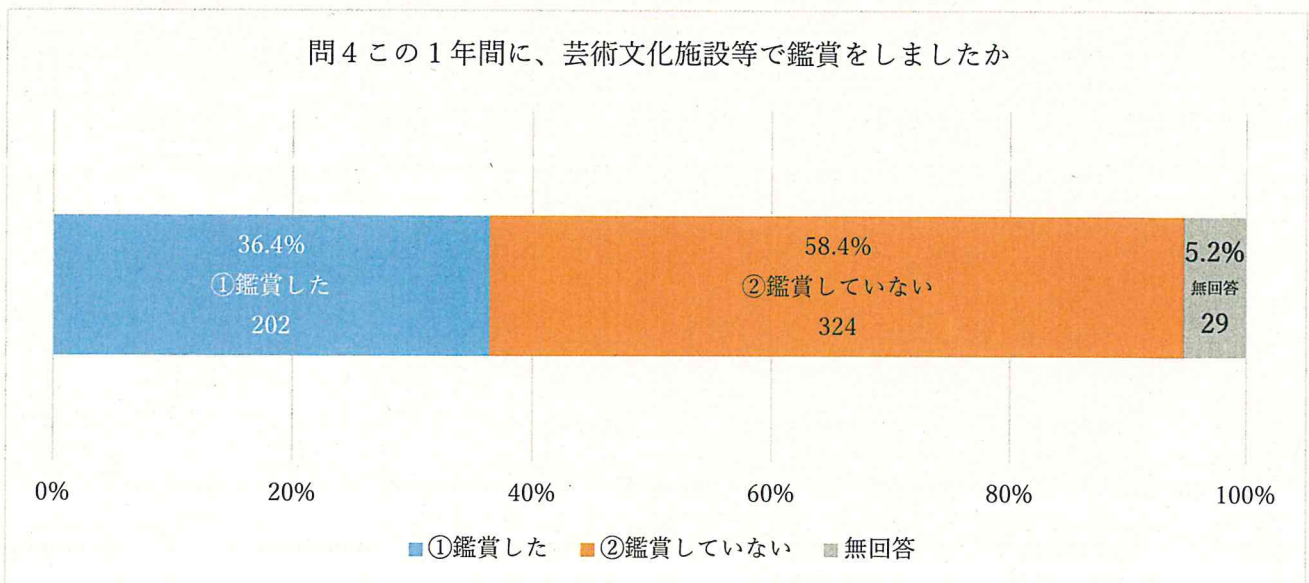


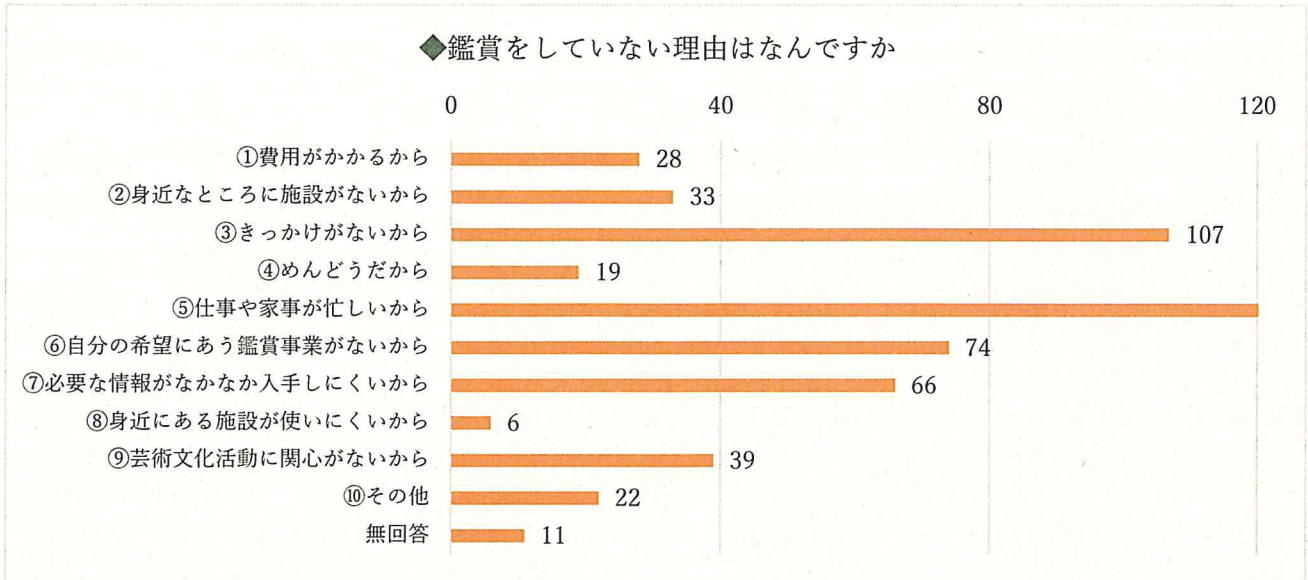
「酒田市の芸術文化活動の現状に満足していますか」という問いに対しては、42%が満足していると回答しています。「不満足」「わからない」という回答が多いことから、積極的に情報を提供し「満足」に変わっていくような取組みが課題としてあげられます。



(2) 鑑賞機会の充実について

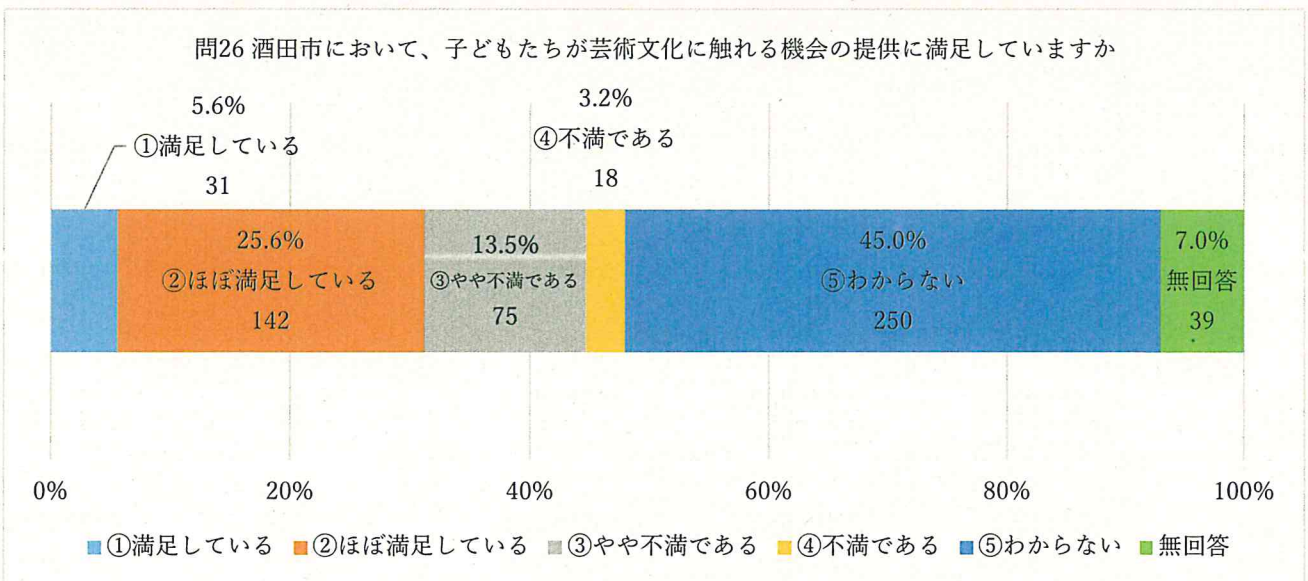
「この1年間に、芸術文化施設等で鑑賞しましたか」という問いに対しては、鑑賞したが36.4%で、鑑賞していない市民の割合が多いという結果が出ています。このことから、多彩な分野における鑑賞機会の提供が課題としてあげられます。

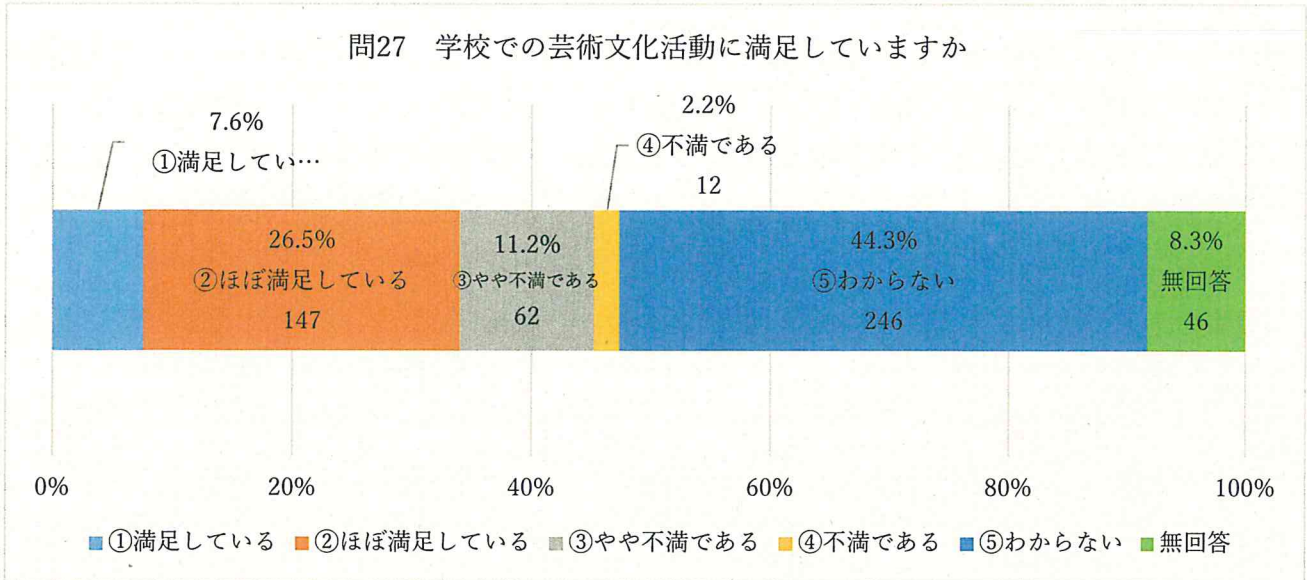




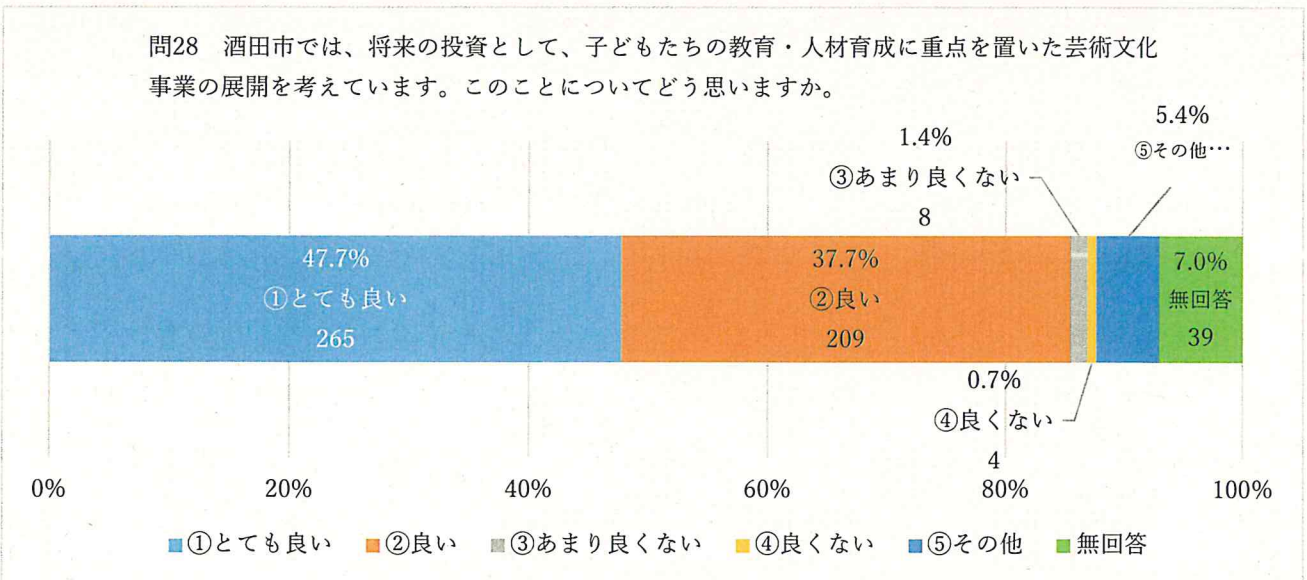
(3) こどもの芸術文化に触れる機会の充実

「子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供に満足していますか」「学校での芸術文化活動に満足していますか」という問いに対しては、「やや不満である」「不満である」という回答もでていることから、芸術文化に触れる機会の充実が課題としてあげられます。また、「わからない」と回答した市民がいずれも40%以上と多いことから、情報提供のあり方が課題としてあげられます。



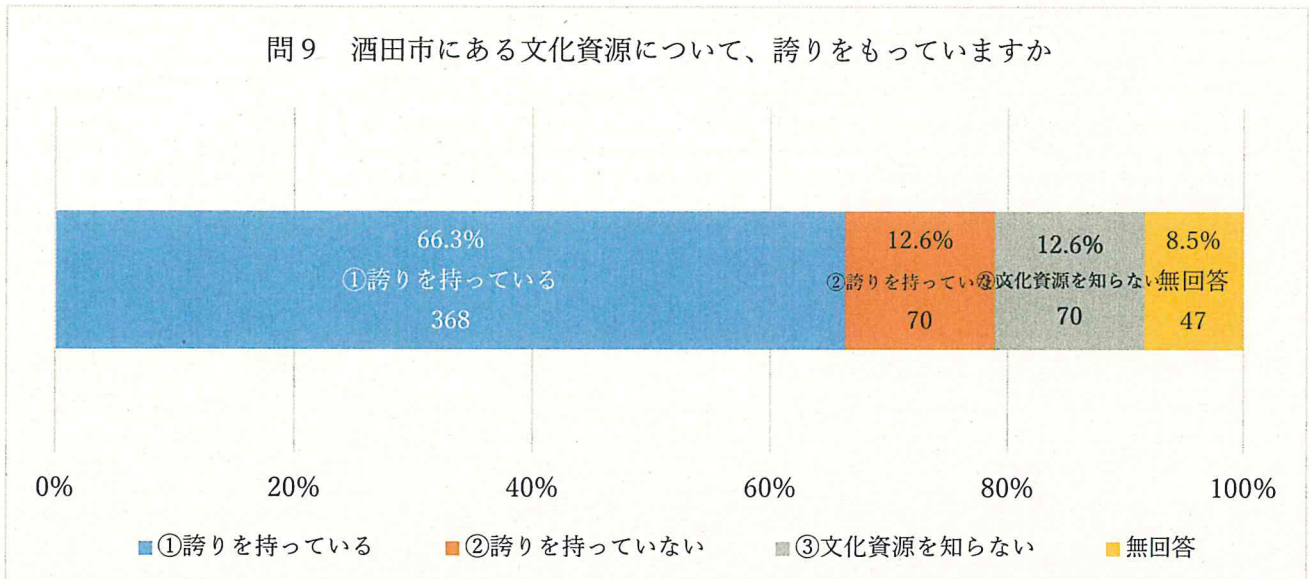


「将来の投資として、子どもたちの教育・人材育成に重点を置いた芸術文化事業の展開についてどう思いますか」という問いに対しては、85%が「良い」と回答しています。文化芸術基本法前文に「文化芸術は、人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重しあう土壌を提供し、多様性を受け入れることが出来る心豊かな社会を形成するもの」と規定しているように、文化芸術のもつ特性を活かした事業を、「未来への投資」という観点から一層の充実を図っていくことが課題としてあげられます。



(4) 酒田市の文化資源に対する誇りの醸成

「酒田市にある文化資源に誇りを持っていますか」という問いに対しては、誇りを持っているという回答が 66.3%で、多くの市民が誇りを持っているという結果がでました。「誇りを持っていない」「知らない」という市民に対し、文化資源に関する情報提供のあり方が課題としてあげられます。



(5) 2020年東京オリンピック競技大会の開催に向けた文化プログラムの展開

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催効果を東京のみならず広く全国に波及させるため、文化プログラム等の機会を活用して、全国の自治体やアーティスト等と連携のもと、酒田でも文化事業を展開します。酒田らしい文化体験による事業展開と国内外への発信のあり方が、課題としてあげられます。

(6) 後継者（次世代）育成

人口減少社会が到来し、文化芸術の担い手不足が指摘されています。文化芸術に触れる機会を充実させ裾野拡大に努めるとともに、次世代の価値観にあった質の高い事業の展開と情報発信に努めていくことが課題としてあげられます。

市が文化政策を進めていく上での基本理念を明確化し、市の責務及び市民等の役割を明らかにするとともに、文化の推進に関する計画の策定及び施策を定め、総合的かつ計画的に推進するための法的根拠として、文化芸術基本条例を制定します。

第1節 文化芸術基本条例の目的と基本理念

酒田市文化芸術基本条例においては、目的と基本理念を以下のように定めています。

(目的)

第1条 この条例は、文化芸術の推進に関し、基本理念を定め、並びに市の責務及び市民等の役割等を明らかにするとともに、市の基本的施策を定めることにより、文化芸術の推進を総合的かつ計画的に推進を図り、もって自由で多様性を認める心豊かな市民生活及び市民が将来にわたり誇りのもてる酒田らしさの創造に寄与することを目的とする。

(基本理念)

第3条 文化芸術の推進に当たっては、文化芸術活動を行うことが人々の生まれながらの権利であることに鑑み、市民等が等しく文化芸術活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。

2 文化芸術の推進に当たっては、市民等の自主性及び創造性並びに文化芸術の多様性が尊重され、市民による多様な文化芸術活動が促進されるよう配慮されなければならない。

3 文化芸術の推進に当たっては、文化芸術が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化芸術に関する情報を広く国内外に発信し、交流が積極的に推進されなければならない。

4 文化芸術の推進に当たっては、文化財や本市の歴史及び風土に培われてきた伝統的な文化（以下「伝統文化」という。）を大切にし、発展させていくとともに、特色を生かした魅力ある新たな文化芸術の創造が図られなければならない。

第2節 文化芸術推進の柱

酒田市文化芸術基本条例においては、第3章文化芸術の推進に関する基本的施策において以下のよう

に定めています。

(文化芸術活動を行う環境の整備)

第10条 市は、市民等が、等しくかつ身近に多様な文化芸術を享受し、並びに文化芸術活動が活発に行

われるために必要な環境の整備を講ずるものとする。

(子どもの文化芸術活動の充実)

第11条 市は、子どもの感性を磨き、及び豊かな人間性を育むため、子どもが多様な文化芸術に親しむ機会を提供するとともに、将来の文化芸術の担い手として育成するために必要な施策を講ずるものとする。

(人材の育成等)

第12条 市は、将来にわたり市民等の文化芸術活動を促進するため、文化芸術に関する専門的知識及び技能を有する者の育成並びに文化の創り手と受け手をつなぐ役割を担うアートコーディネーターの配置等、その他の必要な施策を講ずるものとする。

(文化芸術による国内外交流)

第13条 市は、文化芸術に関する国内外の地域との交流を促進するため、国内外の文化芸術に関する活動を行う者の受け入れ、当該活動を行う者の国内外への派遣等必要な施策を講ずるものとする。

(文化財等の地域資源の活用)

第14条 市は、市民等が誇りと愛着を持つことのできる地域社会の実現を図るため、文化財の保存及び活用、景観の保全及び創出並びに食文化を含む伝統文化の継承、発展その他の必要な施策を講ずるものとする。

(文化施設の充実と活用)

第15条 市は、地域課題に向き合い、活力ある地域社会の実現に寄与するため、それぞれの文化施設の目的、使命を明確にし、文化芸術活動に対応する施設の整備や施設相互の連携等必要な施策を講ずるものとする。

(情報発信と広報戦略)

第16条 市は、市民等の文化芸術活動を促進及び文化芸術を通じた交流を促進するため、文化芸術に関する情報の正確で迅速な収集及び発信をするとともに、より戦略的な広報について必要な施策を講ずるものとする。

(その他の分野における施策との連携の促進等)

第17条 市は、自由で多様性を認める心豊かな市民生活の実現と誇りのもてる酒田らしさを創造するため、文化芸術の推進に関する施策と観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、生涯学習、産業その他の多様な分野における施策との連携促進及びネットワークづくりその他の必要な施策を講ずるものとする。

第1節 基本目標と基本的施策

1. 基本目標

文化行政を行うにあたっては、公平・平等の理念に基づく市民の文化的人権を保障する「市民文化政策（ひとづくり）」と、戦略的思考に立脚し、都市アイデンティティの創造を目的とする「都市文化政策（まちづくり）」という二つの考え方があります。

市民文化政策で保障する文化的人権は、国際連合総会において採択された「経済的、社会的、文化的権利に関する国際規約」の第15条において「文化的生活に参加する権利」「自己の科学的、文学的又は芸術的作品により生ずる精神的及び物質的利益が保護されることを享受する権利」として規定されております。また、日本国憲法第25条においても、「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と規定されているものです。

酒田市では、文化芸術が子ども・若者や高齢者、障がい者、失業者、在留外国人等にも社会参加の機会をひらく社会的基盤となり得るものであることから、「社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）」の理念も踏まえ、市民文化政策、都市文化政策の目標として、条例第1条に「自由で多様性を認める心豊かな市民生活」並びに「誇りのもてる酒田らしさの創造」を基本目標としました。

●市民文化政策 「自由で多様性を認める心豊かな市民生活の実現」

●都市文化政策 「誇りのもてる酒田らしさの創造」

2. 基本的施策

基本目標の実現に向け、酒田市が取り組むべき施策として、20の基本的施策を推進します。

基本的施策	
1	文化芸術活動を行う環境の整備
2	誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備
3	学校教育における文化芸術活動の充実
4	将来の文化芸術の担い手の育成
5	文化芸術活動を支える人材の育成
6	市民との協働・共創
7	地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり
8	文化芸術による国際交流
9	専門性の高い文化の仕掛け人の配置

10	文化芸術による 社会包摂
11	文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化
12	多様な分野との連携及びネットワークづくり
13	文化財等の地域資源の活用
14	酒田らしいまちの景観の創出
15	文化施設の活用
16	伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信
17	観光との連携
18	産業との連携
19	組織体制の強化
20	市民の視点にたった情報発信・広報戦略

第2節 重点的視点

平成27年5月22日に閣議決定された第4次基本方針では、「文化芸術は、成熟社会における成長の源泉、国家への威信付与、地域への愛着の深化、周辺ビジネスへの波及効果、将来世代のために継承すべき価値といった社会的便益を有する公共財」であること、また、「文化芸術は、子供・若者や高齢者、障がい者、在留外国人等にも社会参加の機会をひらく社会包摂の機能を有している」としています。

このようなことから、文化芸術の役割を見直し、可能性を広く捉えるために、下記の2点を文化芸術の基本的施策を展開する上で共通する重要な視点とします。

「文化芸術による社会の課題解決（健康、福祉、子育て、教育問題等）」

「次代を担う子供たちを対象にした文化芸術事業の充実（未来への投資）」

第3節 基本的施策の方向性

1 文化芸術活動を行う環境の整備

市民が、多様な文化芸術を創造・発表したり、参加・鑑賞したりする拠点として、文化施設の果たす役割は極めて重要です。

個人や文化芸術団体が多様な文化芸術活動を行うために、適切な機器の更新や施設整備を行い、活動の場の提供に努めていきます。

また、アーティストによる多様な活動ができるよう空家等を活用した環境の整備も検討していきます。

2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備

全ての市民等が等しく文化芸術を創造・享受する権利をもっているという基本理念に基づき、文化芸術に関わる環境を整備する必要があります。高齢者、障がい者、若者、子ども等すべての市民等が身近に多様な文化芸術を鑑賞するとともに、文化芸術活動を活発に行うことが出来る環境の整備、全ての市民が気軽に参加できる体験型ワークショップ等の開催、学校等へのアウトリーチの充実、アートマネジメント研修等の実施など、文化的環境の整備に努めていきます。

また、様々な分野で活躍するアーティストと市民とが出会い、交流できる場の提供も行っていきます。

3 学校教育における文化芸術活動の充実

学校は、子ども達の人格形成や感性、創造性を育む上で重要な場であるとともに、その地域の歴史を学び、伝統芸能、民俗芸能を伝承していく上でも重要な役割を担っています。

学校教育における、伝統文化をはじめとする多様な文化芸術に触れる機会を拡充するため、市と学校が連携を図り、アーティストや美術館の学芸員等によるアウトリーチやワークショップなど体験型事業の充実に努めていきます。

4 将来の文化芸術の担い手の育成

文化芸術は豊かな人間性をはぐくみ、創造力と感性を育む等、人間が人間らしく生きるための糧であり、他者と共感しあう心を通じて意思疎通を密なものとし、人間相互の理解を促進する効果があります。

このような文化芸術の本質的価値を踏まえ、青少年の豊かな感性と情操教育に資するため、青少年を対象にした公演等の鑑賞機会の充実、体験型ワークショップの開催など、文化芸術の担い手育成の充実に努めます。

5 文化芸術活動を支える人材の育成

少子高齢化等の影響により、地域コミュニティの衰退と文化芸術の担い手不足や、文化芸術の専門的人材の育成・確保が指摘されているなど、地域の文化芸術を支える人材育成の危機感が広がっ

てきています。

このことから、専門性の高い人材の育成・確保に努めるとともに、文化芸術活動を支える人材育成の担い手を育成するため文化芸術団体等への支援を行うほか、アーティストと地域（学校・コミュニティセンター・公共施設等）間の調整を行うコーディネート機能の構築や多様な公演を企画運営できる人材の育成のための、各種事業やアートマネジメント研修会等を開催します。

6 市民との協働・共創

文化芸術推進基本法の中で、文化芸術推進にあたっては、市民が主体的な役割を果たすことを規定しています。

あらゆる市民が文化芸術に慣れ親しみ、その担い手の育成や創造・活動の場を広げ、総合的な文化事業を展開するためには、市民との協働・共創が必要です。

市民と行政が対等な関係性を保ち、協力・連携しながら適切な役割分担のもとに、共通の目標に向かって、文化芸術の効果を最大限に活かした街づくりを行うため、市民と協働・共創に努めていきます。

7 地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり

地域のコミュニティセンター等と連携し、アーティストによるアウトリーチの実施など文化活動に参加できる環境づくりに努めていきます。

8 文化芸術による国際交流

文化芸術による交流は、異なる文化の相互理解につながり、国内外の平和と安定に資するとともに、異なる文化との出会いから新たな文化の創造の可能性が生まれることが期待されます。

さらに、地域の魅力を国内外に発信することにより、地域のイメージアップをもたらし、観光その他の新たな交流を創出することも期待できます。

文化芸術は、国際化が進展する中であっても、自己認識の基点となり、個人の文化的な伝統を尊重する心を育てるものです。

酒田市では、サンクトペテルブルグや姉妹都市との文化芸術による国際交流を推進していきます。

9 専門性の高い文化の仕掛け人の配置

文化芸術には、人と人との出会いによる反応や変化の触媒となり、異なる物事の考え方や価値観を伝達する媒体としての機能があります。その機能を最大限に活用し、文化芸術以外の分野でも新たな価値や発想を引き出すことで、地域の活性化をもたらす多様な成果や効果に波及していくことが期待出来ます。

このことから、専門性の高い文化の専門人材（アートコーディネーター）を配置し、教育、福祉、観光、産業など文化芸術の視点を活かした、より効果的な街づくり・人づくりの事業展開に努めていきます。

また、文化芸術による事業の展開をとおし、戦略的に酒田市の情報発信を行い、酒田市のブランド化に活かせる展開を目指していきます。

10 文化芸術による社会包摂

少子高齢化、人口減少など様々な社会の課題が列挙されるなか、近年、文化芸術活動が様々な社会課題解決につながっている事例が多く報告されています。

その中でも、社会に溶け込むことに困難を感じているマイノリティの方々や不登校など、文化芸術をコミュニケーション・ツールとして、社会的に包摂を行っていく取組みの報告もあります。

このような事例から、文化芸術の子ども、若者、高齢者、障がい者、外国人等、あらゆる市民に対し、社会参加の機会をひらく社会包摂の機能を活かしながら、特に人権問題・教育問題に重点をおいた事業展開に努めていきます。

また、人口問題や空家問題など、文化芸術が社会の課題解決に貢献できる可能性が高いことから、関係各所と連携し課題解決に向けた取組みを行っていきます。

11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化

文化芸術は、豊かな人間性をかん養し、創造力と感性を育むなど、人間が人間らしく生きるための糧となるものであり、あらゆる市民に社会参加の機会を促し、自己実現や生きがいづくりにつなげていくことができます。

文化芸術の理念に基づき、社会教育・生涯学習との連携を図りながら、多様な講座を実施していきます。

1.2 多様な分野との連携及びネットワーク

文化芸術は、他者との共感、共鳴により相互理解を促すなど、ともに生きる社会の基盤を形成する上でも重要なものであり、人間が理想を実現していくための精神活動及びその成果と広く捉えることができます。また、文化芸術は、活力をうみ創造する源泉であり、地域への愛着心、経済・産業への波及効果、新しい価値の創出など社会的、経済的な価値を有する公共財としての性格も有しています。

街を活性化し、多様な成果や効果に波及させるため、異なる価値観や異分野を結びつけ、他の行政分野における新たな価値や発想を引き出すことが必要です。

文化芸術の特性を最大限に活用するため、教育・福祉・観光・産業等、他分野と連携しながら事業展開を行うとともに、新たなネットワークの構築を行っていきます。

1.3 文化財等の地域資源の活用

文化財は、自然の風土、社会や生活を反映して伝承され発展してきたものであり、人々の情感と精神活動の豊かな軌跡を成すものであり、現代の文化の礎となるものです。

また、文化財や地域資源を理解し愛着を持つことは、誇りを醸成するとともに、交流人口の増加や移住に繋げるなど地域の活性化にも資するものです。

酒田市における文化財活用計画を策定し、酒田市の重要な地域資源である国指定の史跡城輪柵跡や史跡旧燈屋等の有形文化財並びに民俗芸能等の保存継承にも配慮しながら、有効活用を図るとともに、適切な情報発信に努めていきます。

1.4 酒田らしいまちの景観の創出

酒田の歴史や文化を共有することは、酒田の特性や独自性を認識するために重要であり、「酒田らしさ」に対する市民の誇りを醸成し、満足度を高めてくれます。豊かな文化を背景に創出された酒田らしいまちは、外部からの信頼性や都市のブランド力を高めてくれます。

酒田市景観条例で指定された地区をはじめとする酒田の歴史を活かした「酒田らしいまち」の景観の保全に努めるほか、酒田の魅力の創出に努めていきます。

1 5 文化施設の活用

文化施設は、創造、発表、鑑賞、参加等、多様な文化活動を行うための拠点施設であり、酒田市民会館「希望ホール」、酒田市総合文化センター等の文化施設は、活力ある地域社会の形成に果たす役割は極めて重要なものがあります。

市民の能力が発揮され、活動しやすい環境を整備するとともに、市民に対し、新しい価値観の創出に繋がる文化施設の活用についても検討し発信していきます。

1 6 伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信

平成25年12月、自然を尊ぶという日本人の気質に基づいた「食」に関する「慣わし」を、「和食；日本人の伝統的な食文化」と題した「和食」の文化が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。このような背景のもと、平成29年6月に改正された文化芸術推進基本法において「食文化」が追加され、文化芸術の「生活文化」として位置付けされました。

酒田市では、伝統的・酒田の食文化への理解を深める学習機会の提供に努めるほか、酒田の農産物や海産物を活かした酒田の食文化に関する内容、文化芸術の視点を取り入れた創造的な食文化に関する情報発信に努めていきます。

1 7 観光との連携

地域資源や歴史を活かした観光は、酒田らしいストーリーの構築に有効であり、酒田だけの魅力発信に繋がります。

酒田市の文化財や文化資源を活かした酒田だけの文化芸術作品の創作や取組みをとおり、観光振興にも効果のある新たな価値の創出に繋がる視点の提供やネットワークづくりに努めるなど、観光分野とも連携を深めながら、酒田市のブランド力の向上を目指していきます。

1 8 産業との連携

ものづくりやサービス産業の競争力を高めるためには、デザインやアイデア、ブランドイメージ等の付加価値や他者との優位性が必要です。これらは文化芸術によって育まれる創造力から生み

出されていくものです。経済の活性化は、新たな創造性と発信力のある人材を呼び込むことに繋がるため、地域のさらなる発展を促します。

文化芸術には、社会との接点の中で、新しい価値を生み出す可能性があります。デザインやメディア等の文化産業と連携し、まちの活性化に活かしていきます。

19 組織体制の強化

少子高齢化、価値観の多様化など、社会情勢の変化に合わせ、組織体制の強化を図りながら、より効果的な事業運営を目指していきます。

20 市民の視点にたった情報発信・広報戦略

文化芸術の推進を市民や文化芸術団体等と連携して進めていくためには、市民等が必要とする情報を把握し、多面的で質の高い的確な情報を提供していくことが重要です。

そのために、専門性を持った文化の仕掛け人を配置し、酒田市広報やマスメディア等を活用するとともに、インターネットを活用した新しい情報技術を積極的に取り入れ、情報感度の高い人の取り込みを目指します。既に多くの市民が利用しているツイッターやフェイスブック等のインターネットによるソーシャルメディアも積極的に活用し、幅広い年代の多くの人との情報の共有化を戦略的に行っていきます。

また、広報物等のデザインが出来る人材の育成も行いながら、効果的な広報に努めていきます。

● 計画の方向性

市民による文化の力で、酒田のまちを元気にしよう！

基本目標

【市民文化政策】

(人づくり／文化権を保障するもの)
自由で多様性を認める
心豊かな市民生活の実現

【都市文化政策】

(まちづくり／都市発展戦略)
誇りのもてる
酒田らしさの創造

都市文化政策

市民文化政策

1	文化芸術活動を行う環境の整備
2	誰もが芸術文化に親しむことが出来る文化的環境の整備
3	学校教育における芸術文化活動の充実
4	将来の文化芸術の担い手の育成
5	文化芸術活動を支える人材の育成
6	市民との協働・共創
7	地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり
8	文化芸術による国際交流
9	専門性の高い文化の仕掛け人の配置
10	文化芸術による社会の課題解決
11	文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化
12	多様な分野との連携及びネットワークづくり
13	文化財等の地域資源の活用
14	酒田らしいまちの景観の創出
15	文化施設の活用
16	伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信
17	観光との連携
18	産業との連携
19	組織体制の強化
20	市民の視点にたった情報発信・広報戦略

【基本的施策を展開するうえで共通する視点】

- 文化芸術による社会の課題解決
- 次代を担う子どもたちを対象にした文化芸術事業の充実（未来への投資）

基本的視点

第4節 基本的施策に基づく核となるテーマ

公益の精神を持った酒田の町衆文化の興隆

江戸中期、西回り航路の整備により、北前船は、経済の大動脈として酒田港の繁栄をもたらしました。「動く総合商社」と形容された北前船は、多種多様な物資をはじめ人や文化を運びました。

酒田は古くから、新しい文化を受け入れる多様性に柔軟な懐深さを持っていたと思われます。この進取の気風と多様性に対応した柔軟性ある風土は、酒田の人々により、酒田特有の文化として創造され、今に伝えられています。歴史を重んじつつも、新しいものにチャレンジし、新しい価値を創出しようとする気概は、酒田らしさを形成するうえで、とても重要なエネルギーとなっています。

酒田は、公益の祖といわれた本間光丘をはじめとする先人が、砂防林の植林やまち並みの整備に尽力し、地域社会の安定と反映をもたらした、公益の精神が根ざした地域特性をもつまちです。

酒田の歴史と文化に誇りを持ちながら、市民と行政がそれぞれの役割を担い、自発性、自主性、自立性を尊重した協働を基本に、相互に助け合う土壌の醸成が重要です。相互に理解し協力しあう精神は、酒田のまちの安全・安心につながるだけでなく、活力ある地域社会の形成が期待できます。

酒田の町衆として、公益の精神を持ち社会の絆を強めながら、文化芸術によるまちづくりを推進するとともに、未来への投資の視点を繁栄した新しい価値の創出を目指していきます。

誇りのもてる酒田市の形成に向け、これらの精神性を基本的施策を実現するうえでの行動原則とします。

第5節 評価指標

基本目標ごとに、それぞれの評価指標を設定し、評価・検証を行います。なお、今後の新規事業の展開等を踏まえ、適宜評価指標の変更等を行います。

基本目標	評価指標	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 34 年度)
自由で多様性を認める心豊かな市民生活の実現	文化芸術活動のしやすい町だと答える市民の割合	50.3%	60%
	文化芸術活動に参加した市民の割合	27.7%	33%
	文化芸術活動の満足度	42.1%	50%

	鑑賞した市民の割合	36.4%	43%
	子どもたちの文化芸術に触れる機会に対する満足度	31.2%	37%
誇りのもてる酒田らしさの創造	文化資源について誇りを持っている市民の割合	66.3%	79%
	多様な分野との連携事業数	教育関係 1 事業 観光関係 1 事業 商工関係 1 事業	多分野との連携 10 事業
	文化施設に行ったことのある市民の割合 <small>※文化施設とは、土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館、酒田市民会館「希望ホール」、地区コミュニティセンター、酒田市総合文化センター</small>	市内 6 施設平均 81.7%	90%

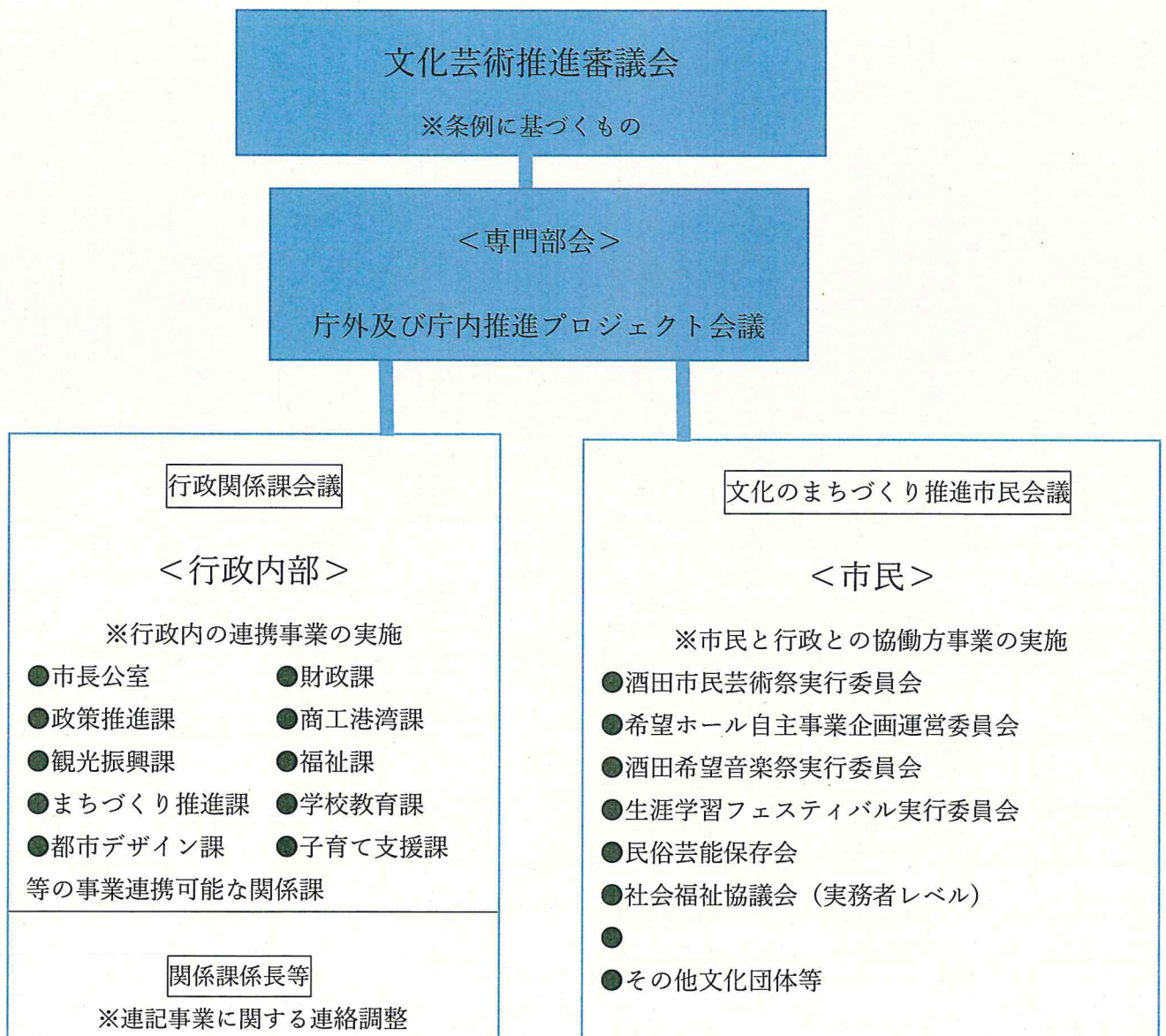
第1節 推進体制

1 酒田市行政

(1) 庁内における横断的連携

行政全般を文化的視点から捉え、文化芸術による波及効果を最大限活かすため、産業、観光、教育、福祉、医療等の多分野との連携を強化し、文化芸術の専門家や文化の仕掛け人を入れた庁内における「文化芸術推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、横断的な取組みを行っていきます。

<推進体制>



(2) 地域性を活かした文化芸術の振興

先述したように、酒田市内には劇場である酒田市民会館「希望ホール」と生涯学習拠点施設である酒田市総合文化センター、そして土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館という3つの美術館が文化施設として存在しています。

酒田市の文化芸術分野での地域性としては、まず名誉市民である故加藤千恵氏により戦後の酒田市民の音楽活動の基礎が築かれ、特に市民の間ではクラシック音楽や声楽、オペラなどの西洋音楽文化が盛んな地域であることが挙げられます。また、市内の若者たちは、独自に地域活性のための目的を持って音楽フェスなどを立ち上げたりするなど熱気を持っています。

一方で、酒田市芸術文化協会には、音楽、絵画、造形、写真、舞踊、文芸、工芸など多種多様なジャンルから文化芸術団体が加盟しており、いわば酒田市民による文化芸術人材バンクとも言えます。

以上のような地域性を活かし、かつ文化芸術基本法・劇場法の要請に応えるために、行政は市内にある文化施設を最大限に活用し、多様な知識、経験をもった幅広い層の市民と協力しながら文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進していく体制を構築していきます。

(3) 市民との協働、共創、事業者等との連携

文化芸術の推進にあたっては、行政は、市民が参画しやすい環境づくりに努め、明確な目的と戦略を持って、社会の課題や市民ニーズに対応した事業の展開を図ることが重要です。また、市民との「協働」により、共に考え、新しい価値を生み出す原動力として、共に育ちあうことが大切です。

市民との協働は、様々な組織や市民との連携が生まれ、ネットワークが広がります。多様な市民が関われる柔軟な組織体制を構築し、既存のコミュニティを横断し、接続する「プラットフォーム」としての機能も有するような展開を目指していく必要があります。

また、事業者とも連携し、共に考え協力しあえるパートナーとなることも新しい価値の創造を図っていく上で大切な視点です。

このようなことから、市民との協働、共創、事業者との連携を強化し、新しい価値観を生み出すエネルギーに繋がるよう、活性化に向けた取組みを行っていきます。

(4) 文化芸術を担う公益財団等との連携

酒田市の文化芸術を担う公益財団法人として、公益財団法人土門拳記念館、公益財団法人酒田市美術館、公益財団法人本間美術館の3財団があり、専門性を有する施設として酒田市資料館があります。いずれも学芸員や調査員を配置し、専門性を活かした企画展の開催や教育普及活動など多面的な活動を行っています。

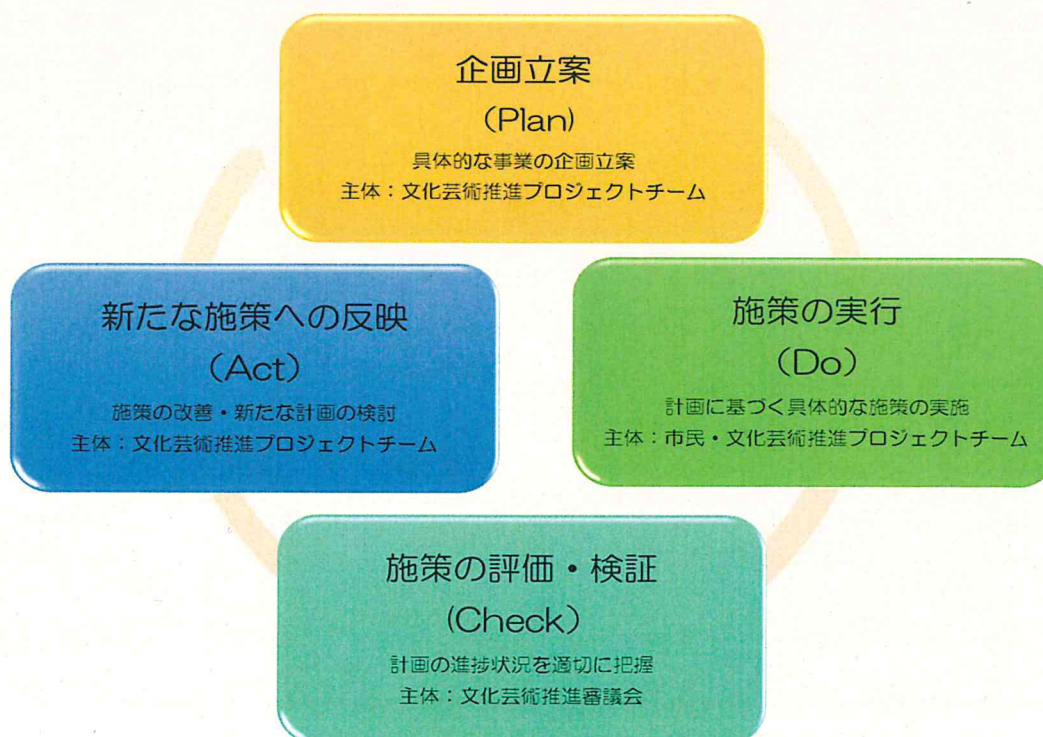
文化芸術による地域の活性化や、様々な行政効果を実現するためには、独自性や質的な価値を追求することが、文化芸術が本来持っている力を引き出し、地域の活性化にも効果や成果へとつながっていきます。

文化行政の推進にあたっては、文化・芸術の有効性や可能性を追い求めるための拠点として、美術館などの文化施設が果たすべき役割や機能を、今まで以上に大きく捉えなおす必要があります。文化施設には、文化芸術の振興と、文化芸術による地域課題の解決を、事業や運営の両輪として位置づけることが求められます。その際に、美術館などが、文化施設の専門分野を越えて連携し、地域の課題に協働で取り組むことが重要になってきます。

それぞれの財団が持つノウハウを十分に活かしながら、子供から大人まで幅広い年代の市民等に対し、文化芸術に触れる機会を提供し裾野拡大に努めていくとともに、文化芸術のもつ多様性や可能性を拓ける取組みを行っていきます。

第2節 評価体制

酒田市文化推進審議会において、第●章第●節で示した基本的目標に対する評価指標の達成度、効果、その他文化の推進に係る重要事項等について、検証及び評価を行うとともに、次年度以降の事業展開に関して提案を行います。



第3節 計画の見直し

酒田市総合計画が目指す街づくりに文化力が輝きをもたらすよう、酒田市文化推進審議会に諮りながら、事業の変更、廃止、追加等を随時行っていきます。

【参考資料】

酒田市が主体の具体的な事業

第●章第●節における20の基本施策に該当する平成28年度に実施された具体的な取組みを掲載しています。

今後、基本目標を達成するために基本的施策を、必要に応じて事業の再編、再構築、新規追加等を行っていきます。

具体的取組一覧

1 文化芸術活動を行う環境の整備	
酒田コミュニケーションポート整備事業	都市デザイン課
コミュニティ振興事業	まちづくり推進課
松山の宝推進事業	松山総合支所
生涯学習推進講座開催事業	社会教育文化課
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業	社会教育文化課
美術館管理事業	社会教育文化課
文化施設長寿命化対策事業	社会教育文化課
写真展示館管理事業	社会教育文化課
市民会館自主事業等運営事業	社会教育文化課
酒田希望音楽祭開催事業	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業	社会教育文化課
文化財保存活動支援事業	社会教育文化課
史跡旧燈屋修復事業	社会教育文化課
光丘文庫資料保全活用事業	図書館
2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備	
酒田コミュニケーションポート整備事業（再掲）	都市デザイン課
市民活動支援事業	まちづくり推進課
地域活動支援センター事業	福祉課
老人クラブ助成事業	福祉課
ブックスタート事業	子育て支援課
地域振興事業	八幡総合支所
地域振興事業	松山総合支所
地域振興事業	平田総合支所
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課
ふるさと教育推進事業	社会教育文化課
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課
市民会館自主事業等運営事業（再掲）	社会教育文化課
酒田希望音楽祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
写真のまち・さかた推進事業	社会教育文化課
文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課
未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業	社会教育文化課
子ども読書活動推進事業	図書館
3 学校教育における文化芸術活動の充実	
酒田希望音楽祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業（再掲）	社会教育文化課

具体的取組一覧

4 将来の文化芸術の担い手の育成	
酒田コミュニケーションポート整備事業（再掲）	都市デザイン課
八幡地域文化振興事業	八幡総合支所
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課
市民会館自主事業等運営事業（再掲）	社会教育文化課
酒田希望音楽祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
写真のまち・さかた推進事業（再掲）	社会教育文化課
文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課
未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業（再掲）	社会教育文化課
5 文化芸術活動を支える人材の育成	
酒田コミュニケーションポート整備事業（再掲）	都市デザイン課
コミュニティ振興事業（再掲）	まちづくり推進課
八幡地域文化振興事業（再掲）	八幡総合支所
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課
庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業	社会教育文化課
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課
土門拳文化賞顕彰事業	社会教育文化課
市民会館自主事業等運営事業（再掲）	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
写真のまち・さかた推進事業（再掲）	社会教育文化課
文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課
6 市民との協働・共創	
市民会館自主事業等運営事業（再掲）	社会教育文化課
酒田希望音楽祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
7 地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり	
コミュニティ振興事業（再掲）	まちづくり推進課
地域振興事業（再掲）	八幡総合支所
地域振興事業（再掲）	松山総合支所
松山の宝推進事業（再掲）	松山総合支所
地域振興事業（再掲）	平田総合支所
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課

具体的取組一覧

8 文化芸術による国際交流	
国際交流推進事業	まちづくり推進課
客船誘致事業	商工港湾課
地域振興事業（再掲）	八幡総合支所
青少年国内外交流事業	松山総合支所
中学生海外派遣事業「はばたき」	学校教教育課
9 専門性の高い文化の仕掛け人の配置	
10 文化芸術による社会包摂	
老人クラブ助成事業（再掲）	福祉課
ブックスタート事業（再掲）	子育て支援課
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課
酒田希望音楽祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
子ども読書活動推進事業（再掲）	図書館
11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化	
市民活動支援事業（再掲）	まちづくり推進課
地域活動支援センター事業（再掲）	福祉課
地域振興事業（再掲）	八幡総合支所
地域振興事業（再掲）	松山総合支所
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業（再掲）	社会教育文化課
ふるさと教育推進事業	社会教育文化課
12 多様な分野との連携及びネットワークづくり	
酒田の魅力発信事業	市長公室
市民活動支援事業（再掲）	まちづくり推進課
国際交流推進事業（再掲）	まちづくり推進課
地域活動支援センター事業（再掲）	福祉課
客船誘致事業（再掲）	商工港湾課
酒田ゆかりびと交流事業	観光振興課
青少年国内外交流事業（再掲）	松山総合支所
中学生海外派遣事業「はばたき」（再掲）	学校教教育課
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課

具体的取組一覧

1 3 文化財等の地域資源の活用	
酒田の魅力発信事業（再掲）	市長公室
国際交流推進事業（再掲）	まちづくり推進課
旧割烹小幡整備検討事業	観光振興課
北前船寄港地交流推進事業	観光振興課
八幡地域文化振興事業（再掲）	八幡総合支所
地域振興事業（再掲）	松山総合支所
松山の宝推進事業（再掲）	松山総合支所
青少年国内外交流事業（再掲）	松山総合支所
地域振興事業（再掲）	平田総合支所
中学生海外派遣事業「はばたき」（再掲）	学校教教育課
土門拳作品保存事業	社会教育文化課
写真のまち・さかた推進事業（再掲）	社会教育文化課
生涯学習推進講座開催事業（再掲）	社会教育文化課
未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業（再掲）	社会教育文化課
史跡旧燈屋修復事業（再掲）	社会教育文化課
光丘文庫資料保全活用事業（再掲）	図書館
1 4 酒田らしいまちの景観の創出	
山居倉庫周辺整備事業	都市デザイン課
さかたらしい景観づくり事業	都市デザイン課
日和山公園環境整備事業	土木課
旧割烹小幡整備検討事業（再掲）	観光振興課
1 5 文化施設の活用	
酒田コミュニケーションポート整備事業（再掲）	都市デザイン課
松山にぎわい創出事業	松山総合支所
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課
市民会館自主事業等運営事業（再掲）	社会教育文化課
酒田希望音楽祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
写真のまち・さかた推進事業（再掲）	社会教育文化課
文化財保存活動支援事業（再掲）	社会教育文化課
未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業（再掲）	社会教育文化課
史跡旧燈屋修復事業（再掲）	社会教育文化課

具体的取組一覧

16 伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信	
健康さかた21計画推進事業	健康課
食育・地産地消推進事業	農政課
酒の酒田の酒まつり事業	観光振興課
酒田ゆかりびと交流事業（再掲）	観光振興課
17 観光との連携	
酒田コミュニケーションポート整備事業（再掲）	都市デザイン課
酒田ゆかりびと交流事業（再掲）	観光振興課
北前船寄港地交流推進事業（再掲）	観光振興課
美術館管理事業（再掲）	社会教育文化課
写真展示館管理事業（再掲）	社会教育文化課
市民会館自主事業等運営事業（再掲）	社会教育文化課
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
18 産業との連携	
酒田の魅力発信事業（再掲）	市長公室
客船誘致事業（再掲）	商工港湾課
19 組織体制の強化	
市民芸術祭開催事業（再掲）	社会教育文化課
20 市民の視点にたった情報発信・広報戦略	
酒田の魅力発信事業（再掲）	市長公室
広報広聴活動推進事業	市長公室
酒田ゆかりびと交流事業（再掲）	観光振興課
土門拳文化賞顕彰事業（再掲）	社会教育文化課
市民会館自主事業等運営事業（再掲）	社会教育文化課
酒田希望音楽祭開催事業（再掲）	社会教育文化課

酒田市文化芸術基本条例（案）の解説

平成 29 年 11 月 20 日

条例の構成

第1章 総則

第1条（目的）

第2条（定義）

第3条（基本理念）

第4条（市の責務）

第5条（市民等の役割）

第6条（文化芸術団体の役割）

第7条（学校の役割）

第8条（事業者の役割）

第2章 文化芸術推進計画

第9条（推進計画）

第3章 文化芸術の推進に関する基本的な施策

第10条（市民の鑑賞、参加及び創造の機会の充実）

第11条（子ども、若者の文化芸術活動の充実）

第12条（高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実）

第13条（人材の育成等の充実）

第14条（文化芸術による国内外交流の推進）

第15条（文化財等の地域資源の活用）

第16条（文化施設の充実と活用）

第17条（情報の収集及び発信）

第18条（その他の分野における施策との連携の促進等）

第4章 酒田市文化芸術推進審議会

第19条（審議会）

前文

- 文化芸術の推進は未来への投資であり、次代を担う子どもの豊かな心と創造性の育み、市民生活に安らぎと潤い、活力に満ちた地域社会の実現に有効です。
- 市民との連携や伝統文化の継承と新たな創造、多分野との連携等包括的に推進し、文化芸術を広く社会の中で生かしていきます。

（目的） 第1条

- 市は、文化芸術の推進を街づくりの柱の一つとして位置づけることを定め、文化芸術の推進により次の2点の実現に資することを目的としています。
 - ・自由で多様性を認める心豊かな市民生活
 - ・市民が将来にわたり誇りのもてる酒田らしさの創造
- この目的を達成するために文化芸術推進に関する基本理念と市の責務及び市民等の役割について定め、明らかにすることを明記しています。

(定義) 第 2 条

- 本条例で規定する用語の意義を定めています。
- 「文化芸術」とは、
 - 「芸術」(文学、音楽、美術、写真、その他)
 - 「伝統芸能」(雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊、その他伝統的な芸能)
 - 「芸能」(講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱、その他の芸能)
 - 「生活文化」(茶道、華道、書道、食文化、その他の生活に係る文化)
 - 「国民娯楽」(囲碁、将棋その他の国民的娯楽)など多様な文化芸術領域。
- 「文化芸術活動」とは、文化芸術を鑑賞すること、参加すること、創造すること、発信すること、これらの活動を支援、継承する活動など。
- 「市民等」とは、酒田市内に居住する者、市内に勤務している者、又は市内の学校に通学している者、市内で文化芸術活動を行う者を指します。
- 「文化芸術団体」とは、市内で文化芸術活動を行う法人その他の団体を指します。
- 「事業者」とは、市内において事業を行う企業、NPO法人、財団法人、その他の団体及び個人を指します。

(基本理念) 第 3 条

- 酒田市の文化芸術の推進に当たって4つの基本理念を規定しています。
- 1つは、文化芸術推進の前提として、すべての市民が等しく文化芸術を創造・享受する権利を持っていること、いわゆる「文化権」の存在を明示し、すべての市民が文化芸術に関われる環境の整備を図るという考え方です。
- 2つ目は、市民の自主性及び創造性、多様性を尊重して表現の自由を保障し、あわせて幅広い分野に及ぶ文化芸術の多様な活動を促進されるよう配慮するという考え方です。
- 3つ目は、文化芸術の推進は、一部の者、特定の者のみの問題ではなく、すべての市民、団体等が役割を担っているものであり、地域全体で共に考え、取り組むべき課題であるという考え方です。
- 4つ目は、豊かな自然と風格ある歴史、伝統的に培われた特色ある文化芸術は、市民の自信と誇りの源として、地域コミュニティを形成する核となることから、本市の歴史と伝統文化を尊重し、将来の世代に継承し発展させていくことの重要性を表すとともに、特色を生かした新たな魅力ある文化芸術の創造への支援も必要であるとしています。

(市の責務) 第 4 条

- 文化芸術基本法第 4 条の地方公共団体の責務「国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」という規定を受ける形で規定しています。
- 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に策定し、実施することを明示しています。
- 第 5 条で定める市民等の役割が実行できるよう必要な体制の整備と各年度の財政状況を踏まえた最適な予算措置を行うことを定めています。
- 街づくりや地域産業などの地域振興に関する行政と連携しながら文化行政を進めるとともに、市政のあらゆる分野において文化芸術の推進につながるよう考えながら行政を進めていきます。

(市民等の役割) 第 5 条

- 文化芸術推進にあたって市民が主体的な役割を果たすことを規定しています。あくまでも自らの意思で文化芸術活動を行ってもらうものであり、強制しているものではありません。
- 市民自らが文化芸術の担い手として、自主的・主体的に文化芸術活動を行うことにより、文化芸術を継承、創造、発展させるよう努める役割としています。また、様々な文化芸術活動を理解し、尊重するとともに、各分野相互に交流を深めるよう努める役割としています。

(文化芸術団体の役割) 第 6 条

- 文化芸術団体は、文化芸術活動に自主的、主体的に取り組んでいますが、文化芸術活動を担う人材の育成という役割も文化芸術推進を図るには欠かせないものと考えています。

(学校の役割) 第 7 条

- 学校は、子どもたちの人格形成や感性、創造性を育む上で重要な場です。学校教育における文化芸術活動は、文化芸術の担い手を育成する土壌でもあり、文化芸術推進の重要な推進主体の一つであるとの基本理念に基づき、学校教育において、子どもたちが文化芸術について鑑賞し、参加し、創造し、又は学習する機会の充実を図るような施策を講ずるものです。

(事業者の役割) 第 8 条

- 文化芸術推進にあたって事業者に期待する役割を規定しています。
- 文化芸術の推進は、一部の者、特定の者のみの問題ではなく、すべての市民等、団体が役割を担っているものという考え方です。

(基本計画) 第 9 条

- 酒田市文化芸術推進計画は、総合計画の分野別計画として位置づけられるもので、この条例とともに文化芸術に関する施策を推進する際に拠り所となるものです。
- 策定に当たっては市民の意見を反映させることと、変更する場合は第 19 条で規定する審議会の意見を聴かなければならないものとしています。

(市民の鑑賞、参加及び創造の機会の充実) 第 10 条

- 文化芸術推進の前提として、すべての市民が等しく文化芸術を創造・享受する権利を持っているという基本理念に基づき、すべての市民が文化芸術に関われる環境を整備する必要がある。すべての市民が身近に多様な文化芸術を鑑賞するとともに、文化芸術活動が活発に行われることができるように発表機会、鑑賞機会等を充実し、及び提供図るものです。

(子ども、若者の文化芸術活動の充実) 第 11 条

- 酒田市の将来を担う子ども、若者たちに未来への投資として多様な優れた文化芸術に親しむ機会の提供や、子ども、若者による文化芸術活動への支援等を講じ、豊かな心と創造性を育んでもいたいという願いをこめた規定です。
- 総合計画にも、「公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち」という政策を掲げていますので、この条例でも子ども、若者に対する施策を積極的に進めることを定めています。

(高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実) 第 12 条

- すべての市民が等しく文化芸術を創造・享受する権利を持っているという基本理念に基づき、高齢者や障がい者、子育て中の保護者、入院中の患者等のように、文化芸術活動に参加することが容易でない方々が参加できる施策を講じるものです。
- 高齢化が進む中で、文化芸術によって市民が生涯を通じて生き生きと活躍できる生涯現役社会づくりにもつなげていくことが必要です。さらに、高齢者の豊富な知識や経験は、地域の伝統文化を継承していく上で重要と考えます。

(人材の育成等の充実) 第 13 条

- 人材の育成と確保には長期的な視点が必要であることから、若手の専門職員等の能力を高めるための研修や能力発揮の機会の確保、活躍の場の提供を行うことが必要です。
- 市民等と文化芸術をつなぐ役割の人材とは、いわゆるアートコーディネーターのことであり、文化芸術の推進を図る上で必要な事業の提案や様々な異なる分野と文化芸術が活力ある地域社会の形成に向けて連携できるように、事業を企画、調整、実施する人になります。
- 第 18 条で他分野との連携促進を規定していますが、専門知識を有するアートコーディネーターを配置することにより連携促進をスムーズに進めることが可能となります。

(文化芸術による国内外交流の推進) 第 14 条

- 文化芸術による交流は、異なる文化の相互理解につながり、国内外の平和と安定にも資するとともに、異なる文化との出会いから新たな文化の創造の可能性が生まれることが期待されます。
- さらに地域の魅力を国内外に発信することにより、地域のイメージアップをもたらす、観光その他の新たな交流を創出することも期待されます。

(文化財等の地域資源の活用) 第 15 条

- 各地域における文化芸術を基盤として、地域コミュニティの形成、観光交流の活性化、文化芸術に関する地域産業の育成などの地域振興を図ることが期待されています。
- 各地区における市民等の主体的な取り組みや地域の歴史、風土、先人その他の地域資源を生かして地域の特色ある文化芸術の振興を図ることにより、市民の自信と誇りや、地域社会の魅力の創造やアイデンティティの形成を促進し、活力ある元気な地域をつくるような施策を高ずるものです。

(文化施設の充実と活用) 第 16 条

- 市民が多様な文化芸術を創造・発表したり、参加・体験したり、鑑賞する拠点として文化施設の果たす役割は重要です。
- また、全国的に文化芸術活動による地域課題に対して成果を挙げている事例がみられており、市民会館、酒田市美術館、総合文化センターなどを本市における文化芸術活動の拠点として活力ある地域社会の実現のために生かしていくために、必要な整備や連携を行っていくことを明記しています。

(情報の収集及び発信) 第 17 条

- 文化芸術の推進を市民等、文化芸術団体その他と連携して進めるためには、豊富な情報を共有していく必要があります。また、地域の個性的又は伝統的な文化芸術活動や芸術家等に関する情報を積極的に発信することにより、交流の促進や地域のイメージアップにつながることが期待されます。
- 文化芸術に関する情報を収集し、文化芸術に関する必要な情報を広報紙等の紙媒体のほか SNS やフェイスブックなど情報通信技術を活用して市内外に発信していきます。また、より効果的な文化芸術活動の広報について検討していくことを明示しています。

(その他の分野における施策との連携の促進等) 第 18 条

- 文化芸術には地域の活力を創出する力があります。近年は文化芸術活動そのものだけでなく、教育と文化、福祉と文化、観光と文化、産業と文化など、文化との広範な連携により、地方の活力を生み出している事例が多くなっています。

(審議会) 第 19 条

- 文化芸術推進施策の成果は、数値化が困難なものや、数値の大小だけで評価できないものが多い。このため、施策の形成と評価に当たっては専門家と市民が参画する第 3 者機関を設置し審議していくものとしします。
- 酒田市文化芸術推進審議会は、本条例に基づいて策定する文化芸術推進計画の達成度や効果についての点検や変更について調査、審議を行います。
- 教育委員会は審議会に対し諮問を行い、審議会からの答申を受けてより効果的な文化芸術の推進施策を行っていくものとしています。